

予算審査特別委員会

第62号議案・平成27年度白石市一般会計補正予算（第1号）から第65号議案・平成27年度白石市下水道事業会計補正予算（第1号）までの計4議案について、定例会2日目（6月18日）の本会議において質疑が行われた後、議長を除く全議員で構成する予算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。同委員会（委員長・水落孝子、副委員長・佐藤英雄）は、6月19日から6月22日までの間で審査を行いました。その結果、すべての議案について、全会一致で原案のとおり可決しました。審査の中で議論されたおもな点は次のとおりです。

◎平成27年度白石市一般会計補正予算（第1号）

民 生 費

〔質疑〕臨時福祉給付金について、該当者にどのような方法でお知らせするのか。
 〔答弁〕該当者には、非課税通知書と一緒に申請書を送付する予定である。

商 工 費

〔質疑〕白石城本丸AR再現事業について、詳細を伺う。

〔答弁〕ARとは、日本語で「拡張現実」を意味しており、コンピュータを使って現実の世界に仮想的なものを追加できる技術である。

白石城において、スマートフォンやタブレット端末でARアプリをダウンロードすることにより、当時の白石城本丸御殿の外観や内部を復元するものである。

また、白石城歴史探訪ミュージアムにおいて、モニター画像でも見学できるようにしたいと考えている。

〔質疑〕温麵の館改修工事について、民間の声を聞く機会を設け、そこでどのような意見が出されたのか。

〔答弁〕観光物産関係者のほかに、白石蔵王駅長や商工会議所・白石青年会議所の皆さんを加え、第1回目のワークショップを開催した。その中で出された意見としては、以前の温麵の館は、暗く見通しも悪いため、防犯面からも明るくしたほうが良い。新たな総合観光案内施設とした場合、名称を温麵の館に特化することなく、新たな名前での公の施設としてスタートしたほうが良いのではないか。また、外観は入りやすいイメージにしたほうが良いなどの意見が出された。

〔質疑〕温麵の館の運営について、そこに人員を配置することや物産品を地方発送できる仕組みなどの検討はされているのか。

〔答弁〕温麵の館は、JRから無償で借りている施設である。そのため、営利的な活動は認められていない。白石の物産品の申込用紙などを置くことは可能と考える。



改修される温麵の館

土 木 費

〔質疑〕雇用促進住宅の購入について、建物の耐用年数について伺う。

〔答弁〕今回購入する建物は、昭和58年に供用を開始しており、国が定める耐用年数は47年で、現在32年目である。

〔質疑〕この住宅は、中学生世帯までを対象に子育て応援をする住宅として考えているとのことだが、間取りがすべて3DKであり、この間取り

では狭い場合がある。部屋の数を多くするなどのリフォームは検討されていないのか。
 〔答弁〕建物の壁は構造上で必要なため、部屋の数を増やすことはできないと考える。

〔質疑〕エレベーター設置は難しいとのことだが、どのような検討・調査を行ったのか。
 〔答弁〕現在の住宅に取りつける場合は、負荷がかかり過ぎるため難しいと考える。

仮に設置する場合は、エレベーター自体を独立して配置し、各階に共通する廊下をつけると、一棟当たり約4千万円かかると試算している。その場合、共益費など住民の方の負担が増えると考ええる。

〔質疑〕独立したエレベーターで建物にほとんど負担かからない設計の最新型があると聞く。工期も、工場生産で10分の1ぐらいで取りつけができるという。工期が短くなるということは、工事費も少なくなると考える。